

あすなろたち

心・技・体を鍛える

あなたはお子さんを「最後まであきらめずに走る子供」に 育てましたか？ ～スポーツ少年団 サッカー部～

1975年に前身である少年サッカーが当町で産声を上げ1980年より正式に少年団活動を始めて40年が経とうとしております。その間、多くの選手を輩出し中学、高校で全国大会、県大会上位校チームに幾多の選手が名を連ねてきました。その歴史の中、サッカー選手の入り口を担当している私たちは「クリエイティブで逞しい選手」の育成を念頭に週3回のトレーニングを行っております。そして、8ヶ月間通して行われるリーグ戦では、対戦するチームの事を決して「敵」とは呼ばず「相手」と呼んでリスペクトし、サッカー文化の形成と少年選手の育成を目標に各チーム、切磋琢磨しております。

全てのサッカー選手、指導者は「on the pitch ピッチ(グラウンド)内」≒「off the pitch ピッチ(グラウンド)外」での行動が重要視されて



いる事を認識しており少年選手達も例外ではありません。

また、スタッフは「学ぶ事をやめたら教える事をやめなければいけない」という言葉を胸に少年選手達と日々向き合っております。

さて、表題の問いに答えた親御さんに私たちは「もし、そうでなければ余り期待しない方がいいでしょう」と返答し「もし、そうなら私が責任を持って育てます!」と回答するでしょう。

チームプレー競技で、上手い出来ないことが連続するサッカーを経験する事は、必ずや子供たちの未来に役に立つ事と信じております。

(坂城サッカースポーツ少年団)

低学年監督 前島 丈司)



余光

◆議会だより編集委員は、筆者から入稿した文章を校正するのが大きな仕事。本当にここまでこだわるの?と思うような細かい部分まで、5名の委員と議会議長、議会事務局2名の計8名で一言一句まで確認をする。

◆編集委員会の開催は、日程を決める第1回と発行直前の最終確認をする第7回を除く第2～6回の5回の委員会を定例会閉会翌週から毎週1回5、6時間かけて行っている。

◆毎回、前回校正した原稿の読み合せをし、更に校正を重ねていく。文章ができると次はレイアウト。印刷技術の素人である委員の理想を形にするために、議会事務局と印刷会社がガンバっている。

◆私たちに、より多くの皆さんに読んでもらえることが励みとなり、次号作成への原動力となる。

(玉川 清史)

発行責任者 議長
議会報編集委員会

委員長 西沢 悦子
副委員長 小宮山 定彦
委員 山城 峻一
委員 玉川 清史
委員 栗田 隆
委員 大日向 進也